

れいわ ねんど
令和4年度

だい かい こさい し た ぶん か きょうせいしやかいすいしんきょう ぎ かいかいぎろく
第1回湖西市多文化 共生社会推進 協議会会議録

きろくしゃ し みる か たかだ
記録者 市民課 高田

にちじ れいわ ねん がつ にち げつ
日時：令和4年8月1日（月）14：00～16：00

ばしょ こさいしやくしよいんかいしつ
場所：湖西市役所委員会室

しゆつせきしゃ な わ きよたか つづまき ひでつぐ たかほし いきむ はやし
出席者 名和 聖高、都築 英嗣、高橋 勇、ホセ カルロス、林 スワナ、
なかむら てつ や にほし かずひさ いい ひでのり みしま まさみ
中村 哲也、二橋 和久、猪井 英典、三島 昌美

じむきょく し みる あんぜんぶちよう し みる か かちよう きょうどうきょうせいかりちよう ふくしゆにん
事務局 市民安全部長、市民課（課長、協働共生係長、副主任）

1. かいかい
開会
2. し みる あんぜんぶちよう
市民安全部長あいさつ
3. いいん じむきょくじ こしよukai
委員・事務局自己紹介
4. ぎだい
議題

ぎだい だい じ こさい し た ぶん か きょうせいすいしん れいわ ねんどしんちよくじようきょうほうこく
議題(1) 第3次湖西市多文化共生推進プラン 令和3年度進捗状況報告

【資料1】【資料2】

じむきょく
《事務局》

しりよう しりよう せつめい だい じ こさい し た ぶん か きょうせいすいしん れいわ ねんどしんちよくじようきょう ほうこく
資料1、資料2説明により、第3次湖西市多文化共生推進プラン令和3年度進捗状況を報告。

しつもん いけん
《質問・意見》

いいん
(委員)

ビデオ通訳は良いことだが、市役所で申請書類を書くときに、日本語で書くのは難しいと思う。
がいこくご か かんたん おも
外国語で書けるなら簡単になると思うが、どのようになっているか。

じむきょく
(事務局)

がいこくご ほんやく しんせいしよるい のうせいしよめいしよ てんにゆうてつづき しよるい かぎ
外国語に翻訳している申請書類は納税証明書、転入手続きの書類など限られており、ローマ字
で書いていただいている。にほんご しんせいしよるい は、ビデオ通訳などを介し意味を説明した上で、ロ
ーマ字で書いていただいている。ちようぶん きにゆう いらい こんてき てんぶしよるい
長文の記入を依頼することは、あまりない。公的な添付書類を
ていしゆつ
提出いただくときにはほんやく をつけることをお願いしている（例：婚姻証明）。

かいちよう
(会長)

みじか ぶんしやう す しんせいしよ みたん すく なが ぶんしやう ぼこくご か
短い文章で済む申請書では、負担が少ないかもしれないが、長い文章は母国語で書いてもら
った方が正確。ほう せいかく こんご かだい けんとう
今後の課題として検討できないか。

じむきょく
(事務局)

ぼこくご きさい かのう けんとう
母国語での記載が可能か検討する。

いいん
(委員)

ぶんべつでまえこうぎ さんかしゃ なんにん
ゴミ分別出前講座の参加者は何人だったか。

(事務局)

17人が参加した。

(委員)

約3,500人の外国人市民がいる中で17人はわずか。できるだけ回数を増やしてほしい。

(事務局)

継続していくことで、回数を増やしていきたい。

(委員)

ビデオ通訳のインターネット環境は良いか。

(事務局)

場所によっては、つながりにくいことがある。画像をオフにしてデータ容量を少なくし、音声のみで対応するように工夫している。

(委員)

インターネット接続が一番大事だと利用していて感じる。インターネット環境を良くすることを検討いただきたい。

(委員)

外国人市民は日常生活でたくさん困ることがあると聞く。例えば、商品の表示。塩と砂糖や酢とみりんを間違えたりする。表示をわかりやすくしてもらえないか。

(事務局)

市として提案できるのは、日本語講座へ参加し、生活に必要な日本語を身につけていただくこと。また、友達や知り合いのつながりを増やし、周囲の方の支援があるとありがたい。

(会長)

商店や作る側の会社が、どこまで表示を工夫するかの問題になる。行政がどこまで介入できるかは難しい問題。

ただし、外国人市民の生活にとってはとても大きな問題であり、行政としては情報として理解しておいてほしい。

(委員)

日曜開催の大人の日本語教室では、たくさんの広告チラシを教材にして、商品の見方や値段を理解する内容を取り入れたりしている。外国人市民の皆さんに教室を案内していただけたらうれしい。

(会長)

資料1、11ページ、基本施策6、事業・施策No. 31にある地域防災指導員は、ほとんどが日本人だと思われる。外国人市民が1名、地域防災指導員になっていると聞いたことがある。ぜひ外国人市民の登用を広げてはどうか。

(事務局)

提案を市民課と危機管理課で共有し、外国人市民の地域防災指導員募集について調整していきたい。

(委員)

資料1、4 ページ、基本施策3、事業・施策No. 14 の小中学校への指導員、通訳員の配置について、鷺津小・中学校での支援は充実しているが、最近、住宅事情からか岡崎小・中学校への編入が増えている。岡崎小学校に編入したが、外国人学校へ転校したケースを聞いたので心配している。

(委員)

岡崎小学校にも日本語指導をする加配教員はいるが、岡崎小・中学校で日本語指導が必要な児童・生徒が増えているので、日本語の取り出し授業がうまく機能していないのかもしれない。すぐに打開策が出るかはわからないが、課内で問題共有をする。

(会長)

議題1に関して、承認いただけたこととする。

議題(2) 第3次湖西市多文化共生推進プラン 令和4年度取り組み計画

【資料1】【資料3】【資料4】

《事務局》

資料1、資料3、資料4 を用いて第4次湖西市多文化共生推進プラン令和4年度取り組み計画、及び市の職員が感じている課題について説明。

《令和4年度取り組み計画についての質問・意見》

(会長)

令和4年度計画について、昨年度、委員からアクションプランを作成すべきという提案があった。多文化共生推進プラン計画期間の5年間分の計画をという主旨での発言と推察する。しかし、世の中の動きが早いため、単年度での計画を策定したものと理解する。

(委員)

資料1、3 ページ、基本施策2、事業・施策No. 9 に、日本語講座を5講座から6講座へ増やすとあるが、現在どんな講座があるのか？

(事務局)

令和4年度は、大人1講座、子ども2講座、親子サマースクール、プレスクールの合計5講座を実施している。

市の総合計画の目標として、令和6年度に6講座にすることを掲げている。そのため、令和4年度の取り組みとしては、日本語教育関係者にヒアリングを行い、対象者やニーズ、行政として設置すべき講座内容について方向性をまとめ、令和5年度の開催準備につなげていくことを計画している。

(委員)

大変に良いこと。登録者数や受け入れ可能な人数は？

(委員)

新型コロナで減っているが、少しずつ戻っている状況。新型コロナ以前は大人の講座で80人位登録者がいた。現在は約40～50人。常に参加しているのは20人ほど。現在の会場は、40人～50人まで受け入れ可能。子どもの講座は、鷺津で水曜日と金曜日の週2回、新居で水曜日に1回ある。鷺津の水曜日は約30人、金曜日は約40人、新居は6人。

(委員)

令和6年度開催予定の日本語講座について、ニーズはさまざまであり、議論は必要。ニーズを捉え、うまくやって欲しい。出身国や技能実習生、永住者、定住者などそれぞれのニーズがある。それらに、現在ある大人の日本語教室1講座で対応するのは大変難しい。湖西市の特性を考慮しつつも、行政として係れる部分は限られ難しいと思うので、十分に議論してほしい。

(会長)

需要に的確に対応した効果的な日本語教室にしていきたい一方で、行政として実施できる範囲、適切な範囲といった視点も必要。

(委員)

資料1、8ページ、基本施策5、事業・施策No.23、高齢者福祉課の計画について。ペルーやブラジルでは、介護保険の制度がないから、チラシだけではなく、講座を開催してはどうか。

(委員)

資料1、8ページ、基本施策5、事業・施策No.23、健康増進課の計画について。外国語の検診一覧の配布は窓口だけか？毎年送る検診のクーポン券にルビをつけるだけでも、分かる人が増えると思う。

《資料4市職員が感じている課題についての質問・意見》

(会長)

資料4、市職員が感じている課題について。行政の窓口が困っている事について、お互いに考えていただくのも重要だと感じる。

(委員)

資料4(1)日本語教室の広報や資料4(4)防災訓練のお知らせについて、湖西市の6%が外国籍の住民。湖西市の情報発信するツールとして、外国人市民専用のツイッターやLINEを利用してはどうだろうか。様々な教室・講座の情報や、困りごとの事例・解決策などを載せ外国人市民もそこにアクセスすればわかるといった、つながりを作るツールを数年かけて構築したらどうか。また、直接、外国人市民に聞いてみるのもよい。

(会長)

情報を共有するためには、どのような媒体が適切か、有効利用を考えてほしいというご指摘と受け止める。

(委員)

現状の外国人市民へのお知らせ方法はどのようにしているか。

(事務局)

多言語版広報紙(ポルトガル語・スペイン語・ふりがなつき日本語)を月1回発行。市ウェブサイトでも見ることができる。また、必要な言語と部数を連絡いただければ、自治会の回覧用にも配布している。多言語版フェイスブック(ポルトガル語・スペイン語・やさしい日本語)。市公式LINE(やさしい日本語)。防災ほっとメール(ポルトガル語・スペイン語・やさしい日本語)がある。

(委員)

自治会では、広報紙は外国人市民に届いていないのではないかと。届ける方法はどうすればよいか。

(事務局)

外国人市民の加入状況を把握し、多言語版広報紙の増減を市民課へ連絡いただく仕組みを作っている自治会もある。しかし、自治会役員は1年で交代し、引継ぎも多いので、毎年度、各自治会への周知を行う必要性を感じている。

(委員)

私のいる自治会では、毎回、各町内にどの言語の外国人市民が何世帯あるか確認をとり、そこから、外国語版広報紙の必要部数を、市へ連絡している。配布は、町内会から各家庭へ直接配布している。しかし、自治会区域内の外国人市民全員を把握できている訳ではない。自治会に入った方はわかるが、入らない方はわからない。

(会長)

自治会は、基本的に任意参加なので、自治会を通じての情報発信が常に細やかにできるとは限らない。また、外国人市民に自治会に加入いただくためには、加入するメリットを自治会と行政、それぞれからお知らせすることが必要になってくると思う。

(委員)

私の出身国の人は、市内に人数が少なく、ほとんどの人は、配偶者が日本人。窓口や病院は、配偶者に助けてもらっている。小さいコミュニティだから、長く湖西にいる人に聞いたりと、みんなとLINEでつながっていて情報交換することができる。少人数だから、つながりができやすいと思う。

他の国の人も困っているとは思いますが、日本語を勉強したり、長く住んでいる人とつながることが大事ではないか。

(委員)

資料4 (3) ①外国語での119番通報時に何語かわからないことについて。銀行では、色々な言葉のあいさつが表にしてある。そのあいさつを話してみれば、反応があると思う。反応したら、この言葉の人かなとわかる。

(事務局)

あいさつではなく、「エスパニョール？」など、言語を聞くのはどうか。

(委員)

日本人の発音では、わかってもらえないかもしれない。あいさつの方が簡単でわかりやすいと思う。

(会長)

119番通報をするのは、緊急性が高い状況。湖西に住んでいる外国人市民の言葉は、いくつかに絞っていけると思う。その言語の特徴的なあいさつや、短い単語・表現をリストにして、119番通報を受ける場所に貼っておく、マニュアル化で対応するのがいいのではないかと。

(会長)

資料4 (3) ②緊急通報等電話通訳につなぐのに時間がかかり、電話を切られてしまう件について。システム会社との契約を変更できないか？

(事務局)

現状では、できないとの回答を担当課から聞いている。技術は日々進歩しているので、そういった会社を探すなど、情報収集は必要。

(会長)

できないのであれば、資料4(3)①の119番通報時に何語かわからない件と同じように、短文でマニュアル化することが必要。

(会長)

資料4 (2) 予防接種や検診については、どのように説明するのが良いか。

(委員)

外国人市民は、予防接種や健診の制度についてあまり理解していないと思う。制度をお知らせする講義を外国語版広報紙で案内するのはどうか。

ただし、外国人市民は月曜日から土曜日まで働き、日曜日は家族のために使う。空いているのは、平日の17時から20時。

(会長)

資料4 (4) 防災訓練のお知らせについては、ゴミの分別収集のように案内できないか？

(事務局)

ゴミの分別収集のパターンは3通り(湖西地区A,Bと新居地区)だが、防災訓練は自主防災会ごとに違い、61地区あるため難しい。自主防災会へ、多言語案内用チラシのモデルは配布しているが、どのくらい外国人市民へ届いているのかがわかっていない。

(会長)

一斉告知はできなくて、61地区それぞれが連絡するというやり方は、非効率的だと感じる。良い方法はないか。

(委員)

外国人市民の防災訓練への参加が少ないから、お知らせを広めるための方法がないか、という課題が出されていると感ずる。しかし、外国人市民が防災訓練に参加しないのは、連絡が行き届いていないことと、必要性を感じていないことの両方があるのではないか。地域のキーマンが必要性を説明し口コミで参加してもらうことが確実。国際交流協会の講座として防災講座を開催しても、チラシだけで外国人市民を集めるのは難しい。キーマンから口コミで発信してもらっている。

(委員) 小中学生が地域の防災訓練へ参加すると確認にスタンプをもらって学校へ出すように、大人については企業に協力してもらい、防災訓練参加のスタンプを会社へ出す方法はどうか。大きい会社が取組んだらどうか。

(事務局)

外国人市民に地域防災指導員へなっただけなど、外国人市民には防災訓練の計画段階から参加してもらうのが良い。出身地域によっても、災害について知らない人、よく知っている人とちがいがあると思う。訓練に参加して、体験をしてもらうことが重要なので、防災訓練参加のスタンプというのも良いご意見をいただいたと思う。

(会長)

他に意見がなければ、議題2については、承認いただけましたもの。また、資料4についても、色々な意見を出していただけたので参考にしていただきたい。

(会長)

議事とは切り離して、日常的に外国人市民との共生について感じていることがあれば発言をお願いしたい。

(委員)

ゴミ出しについて、外国人市民のみならず日本人市民にも分かりやすくしてもらいたい。

(事務局)

市には、ごみアプリ「さんあ〜る」というものがあり、細かな分別を検索することができるので活用いただければと思う。

以上